

令和2年度第1回（第10期第3回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

○開催日時：令和2年6月29日（月）14時00分～16時00分

○開催場所：生涯学習総合センター 多目的ホール

○出席者名：【委員】若原 幸範議長、石田 玲子委員、市橋 大委員、
井上 久雄委員、岡野 育広委員、加藤 恒委員、
加藤 美幸委員、桑原 静委員、林 弘樹委員、
引間 成子委員、村山 和弘委員、亘理 史子委員

【事務局】（生涯学習部）竹居 秀子

（生涯学習振興課）山本 高弘、辰市 健太郎、森田 敏男
荻原 唯史、田方 靖高、久松 丈記、
高野 未紗

（生涯学習総合センター）中村 和哉

（中央図書館）野村 明子

○欠席者名：坂口 緑副議長、河井 尚委員、丹 能成委員

○公開・非公開の別：公開

○傍聴人の数：なし

1 開会

2 報告

前回会議の概要について説明し、委員の承認を得た。

3 議事

(1)令和2年度社会教育関係団体補助金について

事務局から令和2年度社会教育関係団体補助金について、資料1に基づき説明し、意見を伺った。

<加藤美幸委員>

今後もコロナウィルスの影響で事業の中止が予想されるが、その場合、補助金は返納となるのか。

<事務局>

さいたま市社会教育関係団体補助金交付要綱に、補助金交付の額は、事業に要する経費の2分の1を限度とすると規定されている。今後、事業の中止や縮小により、事業費が補助金額の2倍を下回った場合は金額を減らすことになる。

<林委員>

事業計画を見ると理事会が多く事業が少ないが、こうした計画について市としてどのように考えているか。

<事務局>

予算書によると、実際に支出する金額の大部分は広報紙の発行や研究大会参加費

であり、そうした費用の補助であると考えている。

<岡野委員>

理事会では、中止になった事業を今後開催するか否かについても検討する。

<林委員>

PTA 協議会以外の団体に補助する可能性はあるのか。

<事務局>

以前は、地域婦人会にも補助金を交付していたが、解散したので、PTA 協議会のみとなった。今後、新たな要望があった場合には検討する。

<村山委員>

補助金を審議する社会教育委員の中に補助金交付団体の当事者がいるのは問題ないか。

<事務局>

当会議では補助金交付の可否を審議するものではなく、意見交換によって補助金のあり方を考えていくものである。

(2)生涯学習推進ビジョンについて

事務局から資料2に基づき、生涯学習推進ビジョンの基本的な考え方や、これまでの検討経過、新しい時代における生涯学習の意義、今後の流れ等について説明し、委員の意見を伺った。

●コロナ禍の影響について

<引間委員>

学校教育の対応状況を聞きたい。

<事務局>

3月2日に一斉臨時休校となったが、休校していた間も、スタディエッセンスという形で、学校の先生方が動画の学習教材コンテンツを作成し、5月11日から3週間学びを提供した。6月1日からは分散登校を開始し、同月15日からは通常に戻っている。ただし、体育などの学習内容は一部制限している。

<桑原委員>

高齢者は、緊急事態宣言発令当初は戸惑っている人が多かったが、公園で太極拳を行うなど、徐々に順応してきた。また、ZoomやSkypeなどを始めた人も多い。施設が開館すると、揺り戻しがすごく、集まり過ぎてしまう。オンラインも大事だが、場を提供することの意味は大きい。

<村山委員>

団体での仕事は個人情報も多く、最初はテレワークができず、対応が大変だった。生涯学習の一部であるスポーツ大会も中止となり、職員が出勤できないという状況下でどのように発信していくのが課題となった。

一方で、だんだん自宅待機やテレワークが進む中で、生涯学習を通していい経験ができたと感じている。

●情報の提供方策等について

<林委員>

社会教育施設が閉館したのは大きな出来事だ。市は、オンラインでさまざまな情報を提供したが、アクセスしない人は情報を受けられず、公平性が問題になる。

<加藤恒委員>

本市の生涯学習所管課は、緊急事態になってからすみやかに、数多くのコンテンツを提供し、その内容も濃かったことを評価したい。子育て世代の保護者は、公民館などに足を運びにくいのが、こうしたコンテンツは、自分が関わっている保護者にも好評であった。今のところ、情報は双方向になっていないが、今後、利用者の意見を取り入れることもした方がよい。

<石田委員>

公民館運営審議会の委員をやっているが、こうしたコンテンツを提供していることを知らなかった。市民は、情報を提供していること自体を知らないと思う。

<井上委員>

公民館の予約システムなどを利用しているが、オンラインでコンテンツを提供しているという情報はなかった。公民館報には載っていたのかもしれないが、よほど意識していない限りはなかなか見ない。多くの人がそうであり、知らない人が多かったのではないかと思う。

<若原議長>

各公民館の館報を見ても、知らせている施設と知らせていない施設がある。情報を発信するだけでなく、届けるための取組が今後の課題である。

<市橋委員>

「まなベル」という冊子を初めて見た。これだけのことをやっているという点は素晴らしいので、もっと市民に伝えてほしいと思った。

<事務局>

市では、「まなベル」だけでなく、「生涯学習人材バンク」や「チャレンジup さいたま」などで様々な情報を提供しているが、一層市民に周知するため、今回の生涯学習推進ビジョンでは、こうした情報の発信も図っていきたい。

<加藤美委員>

公民館のコンテンツは、ジャンル分けするなどの整理が必要だ。

<林委員>

情報を出しただけで終わっている例が見られるが、情報は、相手に届き、正しく伝わってこそ意味がある。一方的に出すだけというのは、詰め込み教育と同じである。ジャンル分けをするとともに、情報の賞味期限も吟味する必要がある。

<事務局>

今後、御指摘の点について、検討していきたい。

●生涯学習の新しい可能性について

<桑原委員>

これまで、多世代での学びを実現するのは難しかったが、コロナ禍をテーマにす

ると、多世代の話し合いが設定できる。

<加藤美委員>

コロナ禍の影響で、高齢者の情報リテラシーが高まった。Zoom の講習会は人気が出ると思う。

<事務局>

現在 Zoom を活用した事業の実施を検討している。

<加藤美委員>

活字に飢えている人が多い。民間と連携し、図書館の宅配サービスができないか。

<事務局>

市立図書館では、5月15日から有料宅配を始めた。また、同日から予約を再開し、利用者に好評をいただいている。

●言葉のシャワー・言葉のスクラムについて

<市橋委員>

「言葉のシャワー」が読みづらいので、資料として出すには、整理すべきではないか。

<事務局>

「言葉のシャワー」のキーワードを元にアイデアをまとめたのが「言葉のスクラム」である。方向性を出す途中経過の資料として整理し、活用していきたい。

<亘理委員>

言葉のシャワー、言葉のスクラムを読んで感動した。こうした職員のボトムアップでバックボーンを作り、練り上げていく姿勢が素晴らしい。

<林委員>

言葉のシャワー、言葉のスクラムは、ヒアリングシートをまとめたものだが、機会があれば、各委員も元のヒアリングシートを一読してほしい。本当に現場に置かれた方の状況がよく分かる。

●その他

<市橋委員>

PTAの広報紙づくり講習会が中止になっているが、落ち着いたら実施してほしい。

<村山委員>

生涯学習を熱心に研修している市民にアドバイスをする専門家がいるとよい。

<岡野委員>

PTAの広報紙づくり講習会の実施について、理事会で検討する。

<井上委員>

資料にカタカナ語が多いため、日本語で補足することも有効だと思う。